

村のがまだしモン^{No.18}

前回の46号から、本村で活動している「※地域おこし協力隊」のメンバーをご紹介します。

※人口減や高齢化が進む地方で、都市部の人材の定住・定着を促し活性化を図る目的で、2009年度に創設。任期は最長3年で、年間の報酬と活動経費は、国から支給される。

愛知県より応募

おおた まさひと
大田 政史さん



出身は鹿児島で、長崎の大学院卒業後に就職で熊本へ。大学職員・ベンチャー企業・民間企業も経験し、前職で愛知県に転勤となりました。しかし、阿蘇のある熊本が大好きで、昨年11月に協力隊へ。地域おこし協力隊になった動機は、阿蘇の景色がいつでも見れる場所に住みたかったことと、震災時に改めて自分にできることの少なさを知り、もっと誰かの役に

立てるようになろうと思ったからと語る大田さん。

現在、特に被害の大きかった地区の復興・再生の後押しを行っているそうで、担当する「袴野・乙ヶ瀬地区」でもそれぞれ新たな取り組みが進んでおり、皆さんのお耳に届く日も遅くないそうです。

業務にあたって心がけていることは「独りよがりにならないこと」で、住民に無理のないペースで、かつ僅かでも楽しみがあるような取り組みを目指し、試行錯誤している大田さんです。

今後も活躍に期待したいと思います。

取材者 丸野 健一郎委員長

神奈川県川崎市より応募

いがらし えみ
五十嵐 恵美さん

神奈川県にいた時に、結婚式の撮影などカメラマンの仕事をしていました。その経験を活かして、南阿蘇村公式SNS（フェイスブック・インスタグラム）の投稿、管理、広報みなみあその取材補助、村のお祭りやイベントなど撮影全般、村PR動画作成などを行っています。

南阿蘇村には、熊本地震の時にボランティアで初めて訪れました。雄大な阿蘇山やこんこんと湧き出る地下水、出会った人々など、被災した状況にあってもなお豊かな自然や人々の温かさ魅了され、復興していく様子を私も共に見届けたい

と思い、移住を決意しました。そして大好きな南阿蘇村をPRできる協力隊の仕事はぴったりだと思いました。

任期後は、そのまま定住し、写真や動画撮影、人が集う場作りなど、南阿蘇村の自然環境と調和した仕事ができればと思っています。



編集後記

稲の収穫作業も終わり、ほっとされておられる事と思います。春の田植え時期は、水不足で苦勞された農家もありました。夏には、台風が2個通過、更に長雨ということで、農業にとっては大変な年でありました。

熊本地震から3年以上が過ぎましたが、被災した農地では、まだ作付けができない地域もあります。復旧・復興をさらに加速していかなければなりません。

私も広報委員になり、3年目、村民の皆様にも正確な議会情報を発信し、議会広報を多くの皆様にご覧いただくために広報紙作りに励みます。これから寒くなりますが、体調には十分注意され、お過ごし下さい。 栃原 辰郎

議会広報特別委員会

委員長 丸野健一郎
副委員長 太田 吉浩
委員 笠野 真喜
// 今村 竜喜
// 栃原 辰郎
// 今村 輝宏

発行責任者

議長 荒牧 俊一